

明治三十二年

(二月)

一月一日 己巳 日曜 晴。

朝五時起。四方拝済て、食堂にて一同雑煎を祝ふ。生徒越年之者十六人也。皆を伴ひて氷川神社に詣て、犬の子を捨ふて帰る。道すからの野への気しき、春めきて長閑に霞わたり、いとあたゝかきを覚ゆ。賀客、観世清廉梅を誦ふ、追々来客にて賑々し。

弘方摘要 神前初穂、五十銭。

*雑煎(雑煮) *捨ふて(拾ふて) *野へ(野辺) *あたゝかき(暖かき)

一月二日 庚午 月曜 晴。

朝起。同しく雑煮を祝ふ。終日來客を受く。

一月三日 辛未 火曜 晴。

朝起。白山神社及牛天神、太田神社に詣す。弘、田舎より帰ル。人の年詞に、

床の間の画にも御慶を伸にけり

返し、

御互に御慶まふすや年の朝

齋藤松野より白奉書袖一反。

受方摘要 齋藤善子、十円。

弘方摘要 神前え初穂、一円五十銭。

*伸にけり(のべにけり) *まふすや(申すや)

一月四日 壬申 水曜 晴。五十三(度)。

朝起。明日発会の準備す。

一月五日 癸酉 木曜 入寒。晴朗。六十二度。

朝起。年始会日也。午後一時案内、午前より続々来。一時二時之間ニ來客來ル。会する者百三十余人。先椒酒出す。若林の演史、余興なり。三時前より福引す。四時畢る。賑々敷万歳を祝して帰る。夜二入、手伝人等の宴を張る。謡、舞、茶番等盛也。十一時畢。受方摘要 齋藤宮子、五円。同松の、千疋。同常子、千疋。

*椒酒す(椒酒を)

一月六日 甲戌 金曜 晴、風。

来客、佐藤利尾、江沢房子。

一月七日 乙亥 土曜 晴。

朝起、七草の粥を祝ふ。来客、広田武子。弘、田舎に帰る。昨六日、石神井その女、養子と結婚す。依而御召縮緬一反箱入を祝ふ。

弘方摘要 観世兩人え三円年玉。

一月八日 丙子 日曜 晴。

塾生続々帰り来る。来客、石山すま子、長尾数子。入塾、森政子、律子、江副静子。

一月九日 丁丑 月曜 晴。四十度。

授業始をなす。大橋幸子、養子と結婚す。依而松魚一折、白紋羽二重一反を祝ふ。来客、志賀鉄千代。入門、岡本松子。

受方摘要 渡辺庸子、五円。左右田静子、五円。塩原兩人、五円。手島さん、一円。

弘方摘要 旧年七、八、九、十、十一、十二ヶ月分雑費差引、四十五円三十三銭式リ。

*式リ（式厘）

一月十日 戊寅 火曜 陰。

朝起。課業例の如し。来客、星野花子。

受方摘要 武井悦子、二円。

一月十一日 己卯 水曜 晴。五十二度。

課業例の如し。来客、斎藤千賀子。

一月十二日 庚辰 木曜 晴、夜ふけて雨始てふる。

課業例の如し。午下、始而新年之御礼廻りする。北白川宮様え参る。御年詞申上て、閑院宮様え参り、暫く御はなし申上て、三条様より岩倉家ニテ帰る。点灯時なり。貞宮多喜子内親王様、酒匂松濤園ニテ薨去にならせられ、昨日御帰京なる。来客、五島善子。

受方摘要 三条家、五円。

弘方摘要 反物二反、一円七十銭。車夫え祝儀、一円五十銭。車の布皮、一円六十銭。

*祝儀（祝儀）

一月十三日 辛巳 金曜 雨、午下雨晴、三日月清し、又夜二入て雨降。

課業例の如し。午下始て五軒町に行、日暮帰る。来客、岡崎忠子。

弘方摘要 車夫え祝儀、一円。

*祝儀（祝儀）

一月十四日 壬午 土曜 晴。
課業例の通り。来客、毛利万子、大村梅子。桃子、稲を連れて平塚二行、一宿。飛騨高山川上幌子え、火事見舞に反物二反を贈る。
受方摘要 毛利万子、千疋。

一月十五日 癸未 日曜 晴。三十度。
父の命日に付、墓参する。来客、石山須磨子。大坂木津唯専寺、願泉寺、美濃遠藤、佐波青木氏、大坂美尾の忠兵衛、包物を出す。桃子、夜八時帰。
*美尾の忠兵衛(美尾野忠兵衛)

一月十六日 甲申 月曜 晴。二十九度。
朝起。課業例の如し。硯火二かけて墨をする。来客、岩崎行。天下茶屋田中三五郎氏より撫子大根漬物一樽、昆布着。
*撫子大根(蕪大根)

一月十七日 乙酉 火曜 晴、風寒。三十一度。
貞宮殿下の御葬送ニテ一般の休日也。終日揮毫。来客、観世勝女、外二女中連来ル。
一月十八日 丙戌 水曜 晴。例の三十度。
課業例の如し。午下、戸田氏、田村氏え年始ニ参る。長子と東北一番を謡ふ。已而去。岩倉氏に教授して、日暮帰る。

一月十九日 丁亥 木曜 晴。
課業例の如し。

一月二十日 戊子 金曜 晴。
課業例の如し。午下、余、桃子と同しく公爵毛利邸に年始ニ出ル。三条治子様も御入にて、よき折からとて御同席にて御祝宴あらせられ、安子様、万子様の御仕舞も拝見いたし、余も舞ふ。夜八時去ル。九時帰宅す。来客、山根文子、中村敬子。

一月二十一日 己丑 土曜 晴、風。
課業例の如し。天下茶や田中氏え小包物送ル。
*天下茶や(天下茶屋)

一月二十二日 庚寅 日曜 晴。

朝、千久子の祭典して、塾生一同と墓参して帰。午下、五軒町新年会に行、夜九時帰。来客、近藤友正、島田信子。

一月二十三日 辛卯 月曜 晴。
課業例の通り。午下三時より愛治郎同道にて安富氏え行、夜八時過帰宅す。来客、諏訪常子。

一月二十四日 壬辰 火曜 晴、夜十一時頃より雪降出し。をしなへて四十度。
課業例の如し。

一月二十五日 癸巳 水曜 雪、昼頃迄ふる。
課業例の如し。朝戸明て見れば、密雪紛々として積こと、三、四寸計にして、庭の景色の面白さに、この庭を写して賞款やます。

*明て(開て) *賞款(賞翫)

一月二十六日 甲午 木曜 晴。
課業例の如し。来客、川村福子。

一月二十七日 乙未 金曜 晴。
課業例の如し。来客、菅野秀子、小橋富子。
受方摘要 小橋富、一円。

一月二十八日 丙申 土曜 陰。
課業例の如し。

払方摘要 ★(金十麗) 治郎え五円。清廉え二円。

一月二十九日 丁酉 日曜 雨。
朝、清廉来る。桃子、万里家え行。時夜俄然関てい子さま死去に付、関氏えも行。

*時夜(昨夜)

一月三十日 戊戌 月曜 晴。
朝十時十分の汽車にて、西村氏え昼飯を喫して、茂木氏を問ひて、原氏え行、善三郎氏の病を問ふ。追々衰弱のみにて、面会ハ致せしも、分らぬ様子也。四時四十分の汽車にて帰。払方摘要 汽車賃、一円六十銭。車賃、廿銭。赤ぼう、十銭。

*赤ぼう(赤帽)

一月三十一日 己亥 火曜 晴。
課業例の如し。

受方摘要 会計より五円。

払方摘要 雑費、十円。★(金十麗) 治え五円。清廉え二円。

一月会計

払方摘要

★(金十麗)、七日、十一日、十四日、廿五日、廿八日。
清、十五日、廿九日。

(二月)

二月一日 庚子 水曜 晴。

課業例の如し。午下、戸田氏及岩倉氏に行、教授して帰。入塾、戸田正子。入門、伊藤千賀子。

二月二日 辛丑 木曜 晴。

課業例の如し。来客、宮原氏。関てい子葬送ニ愛治郎会す。

二月三日 壬寅 金曜 節分。晴。

午下一時より宮城に参る。良子様御局にて先年始を申上、種々久々の御物語などにて、それより御料理等いたゞき、節分ニ付年取豆をいたゞく。珍らしく六十の歳を取る。四時過、御いとままふしして下る。

*まふしして(申し上げて)

二月四日 癸卯 土曜 晴。

朝教場え出たるに、不計心地あしくて打臥。夜二時頃より腹痛、腸かたるに成ていたみ甚し。井深氏を呼て手当をする。四時頃、大ゐにをこたりて睡につく。

*腸かたる(腸カタル) *をこたりて(怠りて)

二月五日 甲辰 日曜 雨。

早朝、西村氏え電話にて茶事の約を断る。来客、角田千重子。
払方摘要 井深氏え一円、済。絹天三尺五寸、七十五銭、同。

二月六日 乙巳 月曜 晴。
微恙にて休業す。終日揮毫をなす。

二月七日 丙午 火曜 晴、午下五時頃、俄に大あられふる。しはらくにして雨に成る。
またすてにして晴。

午前二時、原氏より電話にて、老人昨夜八時死去之由知らせ来る。愛治郎、五時より出向る。

*大あられ(大霰) *すてにして(已にして)

二月八日 丁未 水曜 晴。

課業例の如し。午下、戸田氏、岩倉氏に教授して帰。

二月九日 戊申 木曜 晴、午前三時頃より風吹出し、終日暴風にてすさまじき空也。
課業例の如し。愛治郎、看梅の約にて横浜行、夜十二時帰。

二月十日 己酉 金曜 晴。

課業例の如し。

二月十一日 庚戌 土曜 晴。

紀元節二付、休業。朝とく起て、氷川神社に参詣して帰る。

*とく(疾く)

二月十二日 辛亥 日曜 晴、風。

(コノ日、記事ナシ)

(二月十三日、記載ナシ)

二月十四日 癸丑 火曜

課業例の如し。入塾、平井福子。

二月十五日 甲寅 水曜 夜三時頃より雪降出す。

課業例の如し。午下、戸田氏ニ教授して田村氏へ行、暫時にして、岩倉氏ニ教授して帰。

二月十六日 乙卯 木曜 朝より雪にて、終日降つゝく。風を交て巴の如し。夕景、積事
老尺計。三十度。

課業例の如し。本日、原善三郎葬送二付、愛治郎横浜ニ行て帰。入塾、榎本幸子。

二月十七日 丙辰 金曜 晴。
課業例の如し。

二月十八日 丁巳 土曜 雪又あられ、夜に入て雨になる。岩倉氏、午後三時の約あり。
課業例の如し。午下二時より岩倉家に行。本日ハはやし会にて、九条、仲川、大河内、田村長子、利久二、宝生九郎、松本父子、大倉も出たり。謡、鼓、或ハ仕舞にて、楽しき事也。余ハ九時ニ帰。
弘方摘要 車夫え五十銭。

*あられ(霰) *はやし会(囃子会)

二月十九日 戊午 日曜 朝より雪にて、午下晴。
朝より揮毫して、午下二時より五軒町仕舞会に行て、七時帰る。

二月二十日 己未 月曜 晴。
課業例の如し。

二月二十一日 庚申 火曜 晴。
課業例の如し。塾生久城初子之兄けがして死去す、と云電報来り、過く帰国す。午下一時、報知新聞社員佐瀬得二氏来、三時間の対話する。生徒一同え当学校之服製を申渡す。正服ハ木綿、黒の五ツ紋白重附、是もキラコ地、半襟も白、同地、紫めりんす袴也。
*過く(直く) *服製(服制) *キラコ地(キヤラコ) *紫めりんす(紫メリンス)

二月二十二日 辛酉 水曜
朝起て、墓参して帰。課業例の如し。午下、戸田氏に教授して、九条家に詣す。恵子君の御安産の御祝申上る。御誕生の御子さまハ御里に成らせられて見上す、外の御上の御二方様を見上る。暫時御枕もとにて御咄しして、御酒肴いたゞきて去る。岩倉家にて教授して帰。帰途雨になる。

*見上す(見上ず)

二月二十三日 壬戌 木曜 終日雨。
課業例の如し。

二月二十四日 癸亥 金曜 朝より雨。
課業例の如し。

二月二十五日 甲子 土曜 雨やうく晴る。満月如鏡。
桃子、栄子、午下より平塚二行、一宿する。

二月二十六日 乙丑 日曜 晴。六十度。
桃子、栄子、六時過平塚より帰り来る。

二月二十七日 丙寅 月曜 雨。
課業例の如し。

二月二十八日 丁卯 火曜 陰。六十度。
課業例の如し。午下、貴婦人会ニ参詣す。五時帰。

受方摘要 会計より五円。

払方摘要 雑費、八円七十銭。貴婦人会え一円。観氏え七円。

二月会計

払方摘要

★(金十麗)、一日、四日、八日、十一日、十八日、廿二日、廿五日。

(清) 廉、十二日、廿六日。

(三月)

三月一日 戊辰 水曜 雨折々降しきる。夕立の様也。六十度。
課業例の如し。

三月二日 己巳 木曜 晴、午下四時雨一しきり、已而晴。六十度。
課業例の如し。入塾、山田梅子、前田国子。

三月三日 庚午 金曜 雨。
課業例の如し。

三月四日 辛未 土曜 終日雨。

課業例の如し。京都御寺の御所よりまめと水から着。御寺の御所え小包物出す。

*まめ(豆) *水から(水辛)

三月五日 壬申 日曜 晴。
朝九時頃より、余、愛治郎、桃子、栄子を連て、観世会二行。終日之楽み也。五時済て帰宅。

三月六日 癸酉 月曜 晴。

かなの試験ニかゝる。来客、山口梅子、原三幸。横浜門野玉子、乳児茂及豊女を連て来る。通学生入門、佐々木滝、松下金子。受方摘要 山口氏、十円。

*かな(仮名)

三月七日 甲戌 火曜 晴。

課業例の如し。姉小路伯御帰京。朝、地震微。

三月八日 乙亥 水曜 朝雨、十時頃より晴になる。

午下、戸田氏、岩倉氏ニ教授して、帰途五軒町ニ寄る。藤袴内侍様にも、御祥忌ニ付御下りにて、六時御上り。余、日暮帰る。大坂地震の中心のよし、新聞ニ出る。来客、安富氏。

三月九日 丙子 木曜

京都大聖寺え書を寄す。大字の試験にかゝる。

三月十日 丁丑 金曜 朝珍らしく雪、午下晴。

(コノ日、記事ナシ)

三月十一日 戊寅 土曜 夜雨切なり。それより雪ニなり、積る事一寸余。

(コノ日、記事ナシ)

*切(しきり)

三月十二日 己卯 日曜 晴。

朝の雪、木々に積たるは皆氷りて、さなから花の真盛とひとしく、珍らしき雪也。朝十時十分の汽にて、余、愛治郎、幾重と同しく、原善三郎氏の三十五日の法事ニ会す。昼飯喫して、久保山ニ墓参する。横浜の紳士たちもみな会す。盛大なる法事也。三時済て帰る。夕飯を喫して、七時の汽車にて帰京す。

*汽(汽車)

三月十三日 庚辰 月曜

課業例の如し。

三月十四日 辛巳 火曜
大字の試験済。

三月十五日 壬午 水曜
画の試験二かゝる。

三月十六日 癸未 木曜
課業例の如し。

三月十七日 甲申 金曜 晴、四時頃雨ふる。
課業例の如し。午下、上野桜ヶ岡梅川楼二而橋本雅邦氏之絵画を観る。その隣の美術協会
場にて野口幽谷氏の遺墨展覽会を見る。

三月十八日 乙酉 土曜 晴、朝霜はしら五寸。
課業例の如し。正子、桃子、五島氏より招きに応じて歌舞伎座へ行。
*霜はしら(霜柱) *歌舞伎座(歌舞伎座)

三月十九日 丙戌 日曜 晴。
朝十時より本所田村増子の一周忌二付、参詣する。昼飯二逢て帰る。

三月二十日 丁亥 月曜 晴、風。
課業例の如し。

三月二十一日 戊子 火曜 晴。
春季皇霊祭。朝十一時頃より田村長子と同しく、三井八郎助宅にて能楽催しあり、終日観
能す。夜八時帰。
*三井八郎助宅(三井三郎助宅)

三月二十二日 己丑 水曜 晴。
課業例の如し。午下早々戸田氏に教授して田村を問ふ。已而帰。祖先祭を執行す。生徒一
同え寿もしを出す、如例。

三月二十三日 庚寅 木曜 晴。
課業例の如し。

三月二十四日 辛卯 金曜 雨。
余、微恙にて臥。

三月二十五日 壬辰 土曜 晴。
試験、此日を以て畢。来客、大分県中山元太郎。

三月二十六日 癸巳 日曜 陰、のち雨又風。

朝十時頃より田畑村田村氏の別荘二行。当日ハ囃子会ニ而、来客岩倉梭子、八千子、大河内氏、中川、余、愛治郎等にて梅若一同、其楽譜方等にて、面白き事也。園中にて立食済て、はやしになる。余も百万と千手を舞ふ。五時頃より雨に成、九時頃雨風にて、帰。

*田畑村(田端村) *はやし(囃子)

三月二十七日 甲午 月曜 晴。
朝、氷川辺散歩して帰。

春風に田井の氷やとけぬらむうゐくしくもなく蛙かな

(三月二十八日、記載ナシ)

三月二十九日 丙申 水曜 晴。

来客、原三幸、其子、時子、栗栖荘兵衛夫婦其子の入門を頼来ル、横田道灌。園中桜始て咲出る、七、八りん。

*栗栖荘兵衛(来栖荘兵衛)

三月三十日 丁酉 木曜 晴。夜十一時、暴風の折から、同区西とひ坂火あり。火の子ち

り来ル事はけし。皆々屋根に上り防ぐ。十一時沈火。四十分間也。雨。

朝、近方散行して帰。三村松子、四季山水揮毫成る。

*とひ坂(富坂) *沈火(鎮火) *近方(近傍)

三月三十一日 戊戌 金曜 雨。

井深氏生産の祝として鶏卵一箱、緋の板しめ産衣を贈る。

弘方摘要 ★(金十麗) え、五円。

*板しめ(板締)

三月会計

弘方摘要 ★(金十麗)、四日、八日、十八日、廿二日、廿五日、廿六日。

(四月)

四月一日 己亥 土曜 朝少し雨、やかて晴。

朝、墓参して中村糸女の七周忌の御経をたのむ。万里小路通次、今般葉室伯家相統人二選定セラレ、襲爵仰せ付られる。右吹聴来ル。博多紋織帯を祝ふ。入塾、両角氏。

四月二日 庚子 日曜 晴。

朝、雨を冒して丸山渡りの花を見る。已而帰。明日の準備にていそかし。卒業生十六人。観世会二行、終日観能の樂みを尽して帰。

四月三日 辛丑 月曜

朝五時起。庭中に式場を設ク。生徒一同、午下一時に来集す。二時、式を執行す。余、勅語を朗読して訓辞を読む。夫より卒業生十八人え証書を渡す。外に優等証、進級証をも渡す。来賓、万里小路伯、南部子を始め、大せい集る。生徒ハ正服黒紋附白重ねにて、紫の袴を着し、肅然として立派也。式畢而すもし、菓子、茶等にて五時全く畢る。朝より陰りにて、然れ共庭中にて式も済、一同写真をとる。

(四月四日、記載ナシ)

四月五日 癸卯 水曜 晴。

授業始をなす。新入学生廿人也。一日にこの多人数の入学生ハ今年を以て始となす。午下、戸田氏より田村氏に行、それより上野の花を見て、所々の花にあこかれつゝ帰る。

四月六日 甲辰 木曜

新入生にて一方ならぬ**困雑**也。課業例の如し。朝、江戸川の花を見る。

*困雑(混雑)

四月七日 乙巳 金曜

課業例の如し。

四月八日 丙午 土曜 晴。

課業例の如し。朝、江戸川の花を観る。

花なれや世ハ花なれやさくら花花見てくらす**けふ**そたのしき

*けふ(今日)

四月九日 丁未 日曜 晴。

石山延子七回忌二付、光円寺迄参詣す。午下、閑院宮觀桜御宴にかねてめさる。御客ハ松寿院、岡松院、治子、貴子さま也。御庭の花に逍遙して、御坐敷より見渡しの風光ハ世に類ひなき様にして、この絶景を写す。御宴はしまりて、余に舞をと乞はせらるゝに、熊野を舞ふ。伏見宮家滝山、地を謡ふ。大に興を添ふ。夜八時過去る。

四月十日 戊申 月曜

課業例の如し。新入生の多きに顔を覚えぬに、教場**困雑**一方ならず。午下、植物園の花を観る。已而帰。北小路広子、食客に来る。

★(金十麗) 治来ル。

*困雑(混雑)

四月十一日 己酉 火曜 晴。

課業例の如し。来客、中島孝行妻及安寿。入塾、飯島福を頼に来る。

受方摘要 大橋よし、一円。小林政、一円。

四月十二日 庚戌 水曜 終日雨。

課業例の如し。来客、島地黙雷細君八千代。入塾、**伊藤定る**。池田嘉代帰塾。今日迄に新入学生五十人に及ぶ。塾も満員にて塾生を断る。花も大かたちはてぬ。当年の花のさかり久しきにうち驚く。花咲出て、より十五日間也。

受方摘要 田中菊二郎潤筆、十二円。

*伊藤定る(伊藤定子)

四月十三日 辛亥 木曜 晴。

課業例の如し。来客、石山すま子。下婢ゆき抱る。

★(金十麗) 二来る。

四月十四日 壬子 金曜 陰又雨。

課業例の如し。入門三人。来客、福井英晴、大桐鳳。書を寄す、長谷川一彦。

四月十五日 癸丑 土曜 晴。

課業例の**通し**。来客、島地八千代、小島駒子、酒卷千世子退校二付御礼二来る、齋藤千賀子。書を寄す、福井英晴え。下婢まさ抱る。改名してきよといふ。

受方摘要 酒卷千せ、廿円。齋藤松の、五円。

*例の通し(例の通り)

〔挿入紙〕

四月五日より十五日迄、寄宿十八名、通学四十三名、べ六十一名。

四月十六日 甲寅 日曜 晴。

山登琴曲会二付、愛治郎、桃子、栄、鶴、中村楼二行、夜九時帰る。来客、板倉仲妻及其妹、来栖妻。入塾、板倉柳。弘児、石神井より愈帰り来る。

四月十七日 乙卯 月曜 晴、風雨。

入塾、武藤勇尾、通学、吉植たま、日下部俊、本間之四人也。書至、福井氏。弘児、礪川小学校え入門す。尋常四年級二入ル。

四月十八日 丙辰 火曜 晴。

課業例の如し。通学、桂、大矢セイ、小倉、館の。来客、浦四三子。跡見治、幾子を連れて来る。

受方摘要 檜垣氏より五円。

*館の(館野)

四月十九日 丁巳 水曜 陰、已而晴。

課業例の如し。来客、石川禄子、娘の入学願ニ来る。大塚陽子、房州より帰り来る、一宿。書至、園祥子、福井英晴。此記字すへて二十日のもの也。

★(金十麗)。

*石川(禄(ロク)子) *記字(記事)

四月二十日 戊午 木曜 陰、雨。

(コノ日、記事ナシ)

四月二十一日 己未 金曜 陰、雨、夜風雨。

課業例の如し。来客、福井妻秀子。入門、石井禄、始を連来る。来客、折原氏、入塾願出る。

四月二十二日 庚申 土曜 雨。

雨中ながら墓参して帰る。課業例の如し。来客、毛利万子。卒業証書を渡す。受方摘要 山崎節、長谷川千よ、六円。毛利万子、五円。

四月二十三日 辛酉 日曜 朝陰、車を発する頃より空晴渡る。

余、桃子、幾恵と同しく、十時十分の汽車にて横浜原氏二行。停車場迄迎ひ来る。少しく咄しのうち、昼餐を喫す。庭の茶室にて濃茶を一服して、庭園中を逍遙して、葉桜の間より八重の花盛りを見、遠景に海を詠め、いと景色よく、晚餐洋食して、八時の汽車にて帰る。月清く楽しく帰る。

*うち(中) *詠め(眺め)

四月二十四日 壬戌 月曜 晴。

課業例の如し。入塾、折原。入門、石川幸子。書を寄す、原安子、浜荻典侍、桜井徳兵衛。小包にて菓子を出す。月清光、新緑の影を逍遙して、月夜図を思ふ。

四月二十五日 癸亥 火曜 晴。

課業例の如し。退校、田中芳子。来客、田中菊治郎。田中芳子、紋織御召一反。

四月二十六日 甲子 水曜 晴。

課業例の如し。午下、戸田氏より岩倉家に教授して、閑院宮様ニ詣し、御息所と御園中牡丹の真盛、つゝしなどの咲そろひたるを愛てつゝ御庭一周して、新緑眺望を写し、また御かたにて御間のものなといたゞき、ゆる／＼御はなしまふし上げて去る。北白川宮様え詣し、御息所明日仙台御旅行のよし、姫宮様かたに謁して、夕景帰る。さて、日の永き事、冬の一日のこゝちす。来客、夜奥村氏来、謠数番うたふ。

★(金十麗)。

*つゝし(躑躅) *まふし上げて(申し上げて)

四月二十七日 乙丑 木曜 晴。

課業例の如し。

四月二十八日 丙寅 金曜

課業例の如し。この日より裕着初る。

四月二十九日 丁卯 土曜 晴。

課業例の如し。

★(金十麗)。

弘方摘要 観世え五円。

四月三十日 戊辰 日曜 晴。

朝九時より、余、室母八人を連て、飯田町の汽車にて、新宿御料地石山家二行。晨子案内

にて、御鷹場、所々拝観する。帰りて昼餐を喫して、又所々に摘草物等して、四時の新宿汽車にて帰。終日の楽也。愛治郎、弘と同道にて、石神井高橋え長々養育の礼二行。五時頃帰。本月五日、授業始めより入学者六十三人也。
受方摘要 会計より五円。
払方摘要 雑費、拾三円三十五銭。

(四月会計、記載ナシ)

(五月)

先帝の御製

茂りあひ茂りあひたるばらすゝきあるに甲斐なき武藤のゝ原
位山神の心やいかにせん愚かなる身の居るもかしこし

*武藤のゝ原(武蔵野の原)

五月一日 己巳 月曜 晴。

入塾、吉田石子、館の卷子、大矢せい。入学、押上清子、小野秀子、大崎せい。

山崎節子、紬一反。田村氏、フランネル一反。

*館の卷子(館野卷子)

五月二日 庚午 火曜 晴。七十度。

課業例の如し。来客、駒井重格妻、娘を連来ル。奥村氏の招ニよりて、午下三時後、余、生徒七人を連て行。園中つゝし、藤の真盛りにて、庭の遊ひにて、五時頃帰る。

*つゝし(躑躅)

五月三日 辛未 水曜 雨。六十三度。

午下、戸田氏に教授して帰。

五月四日 壬申 木曜 晴。

入門、駒井幸子。来客、岡崎忠子、仁科駒女。

五月五日 癸酉 金曜 晴。

端午の節句。訃音、裏松玉蓮院逝去。

*裏松玉蓮院(裏松玉林院)

五月六日 甲戌 土曜 雨。
課業例の如し。

五月七日 乙亥 日曜 終日雨、四時頃雨晴。

朝、裏松氏に弔詞を伸。金千疋備物。帰途、観世会二行、四時過帰。

*備物(供物)

五月八日 丙子 月曜 晴。

入門、加藤民子。

★(金十麗)。

五月九日 丁丑 火曜 晴、終日陰。

課業例の如し。

五月十日 戊寅 水曜 晴。

課業例の如し。余、昨日より脳の氣にて他出稽古断る。夕景、氷川遊園二逍遥する。幽雅なる山水、尤好、蛙声かまびすし。月夜など尤妙也。

★(金十麗)。

受方摘要 田中喜兵衛、五円。

五月十一日 己卯 木曜 晴。

課業例の如し。書至、岩倉梭子。返書、同。

五月十二日 庚辰 金曜 朝より雨しきり也、終日の晴間なく降、夜九時雨全晴。毛利

家園遊会に招かる。

課業例の如し。余、脳あしく故に、毛利様御断申上ル。昨十一日、川上参謀総長操六子薨す。国家のため惜むべし。

五月十三日 辛巳 土曜 天晴朗。

課業例の如し。朝より茶店のこやかかけして、大イに明日の準備する。浦四三子、此度台湾に行二付、暇乞に来る。来客、伊集院幸子、妹を連れて来る。同(来客)、文眠師。書至、西京万里小路幸子、智子、小包にて昆布及菓子昆布着。

受方摘要 万里小路幸子、五百疋。

*こやかかけ(小屋掛け)

五月十四日 壬午 日曜 晴。

園遊会執行す。朝より茶店其外に造花、桜、山吹、藤等かけて、提灯の数三百箇。十二時頃より続々来客ニテ、余興太神楽也。人数三百人余也。運動場一はいにて、其賑はしさ譬ふるに物なく、此日也、天晴朗にして単物を着す。それにて汗流るゝ如し。奥の座敷にハ生花を陳烈あり、来賓一同観を尽して六時帰。夜ニ入て提灯に火を点して、其光景又一変す。塾生等、晚餐を庭にて喫し、皆々手をつなひて唱歌をうたふ。九時済。

*一はい(一杯) *陳烈(陳列) *観を尽して(飲を尽して)

五月十五日 癸未 月曜 晴。

休業す。

五月十六日 甲申 火曜 雨。

課業例の如し。

五月十七日 乙酉 水曜 晴。

五時起て、散歩して帰。課業例の如し。午下、戸田氏に教授して、田村氏を訪て、長子不在にて直に帰。岩倉梭子え神雛軸を借す。酒井氏より松影染一反。

★(金十麗)。

*借す(貸す)

五月十八日 丙戌 木曜 晴。

五時起、氷川遊園に逍遙して帰。課業例の如し。来至、毛利万子。愛治郎、横浜二行。

*来至(来客)

五月十九日 丁亥 金曜

課業例の如し。徳川氏に御手本二冊、小包にて出す。

五月二十日 戊子 土曜 陰、朝より陰、午下五時頃雨。

課業例の如し。

五月二十一日 己丑 日曜 晴。

朝より揮毫ものにいそかし。来客、宮原六之介、大橋幸子。太陽ニ書家十二傑のうちに当撰したるに二付、書を願に来る。

弘方摘要 園遊会会費、十円。

*二(衍)

五月二十二日 庚寅 月曜 晴、夜月清し。
朝起、墓参して帰。課業例の如し。

五月二十三日 辛卯 火曜 晴。
朝起、白山え参詣して帰る。課業例の如し。来客、岡田氏、生徒願出ル。

五月二十四日 壬辰 水曜 朝雨、已而晴。
午下早々戸田氏、岩倉氏に教授して、帰途角田氏を訪て帰。

★(金十麗)。

五月二十五日 癸巳 木曜 晴。
朝起、散歩して帰。入塾、須田もと。来客、岡崎忠子。

五月二十六日 甲午 金曜 晴。

早起、散歩して帰。課業例の如し。午下、閑院宮様え参り、御息所様御教授申上て帰。来客、岩浪稲子。此度、和蘭海牙ニテ万国平和会議に本邦女子加盟の義ニ付、協議を毛利安子、鍋島栄子等十一名にて、本日集会申来ル。余ハ相断候。本願寺貴婦人会よりも右の義申来る。余ハ不参。吉野より白ちゝみ一度。受方摘要 北白川宮より金千疋。

*海牙(ハーグ) *義(儀) *義(儀) *白ちゝみ(白縮) *一度(一反)

五月二十七日 乙未 土曜 晴、風吹。
課業例の如し。此日、姉小路伯房州より帰京。

五月二十八日 丙申 日曜 晴、風吹。
朝飯喫して姉小路家を訪ふ。伯の病気のため、医師の診★(目十察)を乞に帰らる。格別の事もなきよふに覚ゆ。昼飯を喫して帰る。

*診★(目十察)(診察)

五月二十九日 丁酉 月曜 晴、さむし。
課業例の如し。来客、山中秀子母たき。

五月三十日 戊戌 火曜 晴。
課業例の如し。来客、山中秀子母たき。

五月三十一日 己亥 水曜 朝より雨ふり出しぬ。

来客、島田信子、此度万国平和会議二付、承諾を申来る。依而余、賛成す。
受方摘要 会計より五円。

五月会計

払方摘要 五月雑費、十八円十三銭五り也。

染物、\白紬、生海老。同、\白羽二重、黒五ツ紋。ゆのし物、\黒縮緬ひふう。

廿一日、\薄色縮緬三枚重色上ケ。廿一日、\大島紬あらひはり。廿一日、\平御召羽織あらひはり。

廿二日、\紹振袖仕立、三十日。小紋長襦半裏共ゆのし、三十日。

*五り(五厘) *ゆのし物(湯のし物) *ひふう(被布) *あらひはり(洗張) *

あらひはり(洗張) *長襦半(長襦袢) *ゆのし(湯熨斗)

(六月)

六月一日 庚子 木曜 好天気也。朝より雨、昼後空も晴て風もなく。

入門、岩田八重、加藤京。余、午下早々五軒町を訪ふ。姉小路君、病痾殊の外よろしき由、佐藤氏の診★(言十察)にて、先々安心也。此日、四時五十分の汽車にて房州え帰らる。

同日、横須賀迄のよてい也。

払方摘要 観世え五円。

*診★(言十察) (診察) *よてい(予定)

六月二日 辛丑 金曜 晴。

課業例の如し。入塾、小室銀子、その妹。

六月三日 壬寅 土曜 陰雨不定。

課業例の如し。

六月四日 癸卯 日曜 晴。暑し。午下二時頃俄然雨降出して、帰りの頃晴。

来客、余の世話して花松典侍様に仕へて廿余年、今年七十二歳にてめて度隠居いたし郷里に帰らむとて暇乞に来る、などと申人也。余、桃子、三浦を連て、観世会見物す。石山須磨子、大イ御門氏も来る。五時済て帰る。

*めて度(目出度) *大イ御門氏(大炊御門氏)

六月五日 甲辰 月曜 先々晴。

課業例の如し。入塾、岡本美子。

六月六日 乙巳 火曜 晴。
(コノ日、記事ナシ)

六月七日 丙午 水曜 晴。
課業畢而午下戸田氏ニ行、教授して、帰途田村氏を訪ふ。謡二番うたふて帰。

六月八日 丁未 木曜 雨。
(コノ日、記事ナシ)

六月九日 戊申 金曜 朝より雨、午下晴。
課業畢而午下閑院宮様え詣し、御教授申上て帰。

六月十日 己酉 土曜 晴。
課業畢而揮毫す。

六月十一日 庚戌 日曜 晴。
朝より絹地揮毫ニかゝる。終日也。

六月十二日 辛亥 月曜 晴。
課業畢而午下より、余、桃子同道、三井徳右衛門氏ニ能楽を見る。夕餐の饗応ニ逢而、八時頃帰。
*三井徳右衛門氏(三井得右衛門氏)

六月十三日 壬子 火曜 雨、午下晴。
故父の十年祭ニ付、良子様え白縮二反、志のしるし迄ニさし上候。房州姉小路、万里小路家え右の志白縮二反つゝを贈る。絹本色紙短冊二枚、安房国由基村永井東洲。絹本横物一枚、近江国高宮馬場富三郎。

六月十四日 癸丑 水曜 晴。
朝七時より戸田氏に教授して帰。課業例の如し。近衛歩兵猿田只介、松之詩を書て遣す。来客、三輪甫一。書を寄す、長谷川謹介。

六月十五日 甲寅 木曜 晴。
故父十年祭祀ニ付、余、休業ス。朝八時、家内一同墓参ス。帰、午下三時ヨリ祭典執行、祭主重威奉仕ス。参詣来客者、姉小路良子様代理増女、五軒町夫婦、玉枝、菊也。其外う

からやからのみ。四時過より食事、番町伊勢やの料理。焼物代、有松しほり一反ツ、夜八時畢而皆々帰。書至、台湾浦四三子。
*うからやから(親族氏族) *有松しほり(有松紋)

六月十六日 乙卯 金曜 晴。
朝起、氷川田甫に散歩して帰。

受方摘要 軍事公債利子、金七円。

六月十七日 丙辰 土曜 晴。八十四度、熱甚し。

朝、散歩して帰。来客、左右田鳥子。同、原安子。愛治郎、栄子、鶴子、弘を連れて、石山家二行、蚩狩して一宿。
白縮緬一反。

六月十八日 丁巳 日曜 晴。少し寒し。
朝より揮毫す。夕景、日光亭に菖蒲を見る。愛治郎の一行、昼頃帰宅す。

六月十九日 戊午 月曜 晴。八十三度。
通学入門、島田静子。
受方摘要 閑院宮殿下ヨリ三十円。

六月二十日 己未 火曜 晴。熱八十五度。暑さに絶かね、愈明日より半日之授業と決定す。

朝五時より生徒を拉して氷川神社に詣て帰。午下五時頃より雲煙来集して雷鳴及雨降出す。実に豪雨如至、可喜。

六月二十一日 庚申 水曜 雨。七十度、寒し。

朝七時より戸田氏二行、教授して帰。本日より半日教授と定む。五月雨降しきる。
植付も出来てめでたし五月あめ

六月二十二日 辛酉 木曜 終日の雨。
課業例の如し。来客、重威大塚陽女、房州(より)帰りたる二付、留任を頼みに来る。

六月二十三日 壬戌 金曜 雨、午下晴、又雨。
課業畢而、午下閑院宮様え参り、御教授申上て、帰途志賀氏を訪ふ。夕餐を喫して帰る。入塾、小山鶴子。来客、大塚陽子呼に遣す。月食、夜九時より始り一時皆既のよし、雨にて月不見。

六月二十四日 癸亥 土曜 陰、夜月清し。
課業例の如し。

廉来、夜、★(金+麗)。

六月二十五日 甲子 日曜 先々晴。八十一度。
入塾、田岡仲子。来客、長谷川千賀子。

六月二十六日 乙丑 月曜 朝より陰、午下晴。
課業例の如し。来客、千代田新聞記者木村宇太郎。

六月二十七日 丙寅 火曜 晴。
来客、文部大臣秘書官正木直彦より予テ書面にて申来ある文学士横山達三氏、一面晤する。

六月二十八日 丁卯 水曜 晴。
朝六時より戸田氏に教授して帰。課業例の如し。本日より庭中池の水を落し、池を縮小す。
大鯉沢山落る。書至、佐野常民。

六月二十九日 戊辰 木曜 晴。
朝六時より岩倉家に教授して帰。高辻家扶来。
受方摘要 九条家、千疋。

六月三十日 己巳 金曜 晴。
課業例の如し。訃音、京極艶子昨廿九日死去之由、報来。葬送ハ七月二日。
受方摘要 会計より五円。

六月會計

払方摘要 六月雜費、拾円六拾三錢。

六月一日、鳴海しぼり二反、米より、一円五十錢。廿五日、そうり一足、大黒や。
*鳴海しぼり(鳴海絞) *そうり(草履)

(七月)

七月一日 庚午 土曜 陰。
課業例の如し。終日揮毫す。京極家え金千疋柶料を備える。

田村氏より、きりふ一反。

廉、★(金十麗)。

*備える(供える) *きりふ(桐生)

七月二日 辛未 日曜 晴。

朝とく起出て、七時車にて高輪佐の別邸ニ赴く。かねて約したる事とて、客間にて主人常民伯に面晤す。病中も三ヶ年のよし、看護婦も二人いまた付添居る。庭園中散歩も出来て、ともに広き園中一めぐりする。久々の物語りに時を移し、ひるげ饗応せられ、ゆるく、午下一時過いとまを告て、毛利公を訪ふ。安子君に御めもしを得て、種々御咄し共まふし上る。万子様ハ井上氏と大磯えならせられて御不在也。御側にて御八ツいたゝきて、五時御いと間まふし上る。

毛利さまより博多帯地。長谷川静子より三保ちゝみ一反。

*佐の(佐野) *まふし上る(申し上る) *いと間(暇) *まふし上る(申し上る)

*三保ちゝみ(三保縮)

七月三日 壬申 月曜 晴。

課業例の如し。来客、佐野常羽。

七月四日 癸酉 火曜 晴。

課業例の如し。来客、裏松千代子、仁科駒、折田 小兒二人を連来、北小路広子。

受方摘要 三条家、十円。

七月五日 甲戌 水曜 夜雨。

朝六時より戸田氏ニ教授して帰。課業例の如し。

受方摘要 吉田鈺子、三円。数兼子、三円。生源寺、同。樹下定江、同。大東豊、同。平田三枝、同。

★(金十麗)。

*数兼子(数兼子)

七月六日 乙亥 木曜 晴雨不定。

朝六時より岩倉氏に教授して帰。来客、佐野隠居。

岩倉家より白壁すきや一反。玉川氏、ゆかた二反。

受方摘要 岩倉氏、十五円五十銭。斎藤両人、廿五円。園祥子、三円。

*白壁すきや(白壁透綾)

七月七日 丙子 金曜 雨晴不定。

(コノ日、記事ナシ)

七月八日 丁丑 土曜 雨。
課業例の如し。来客、万里伯、森永琴。
田村氏より紋織御召一反、外に三反。

七月九日 戊寅 日曜 終日雨不止。
終日揮毫す。来客、伊藤定子母此度定子退校ニ付、御礼ニ来る、上野登勢子。書を寄す、毛利万子。

岡本美子、ちゝみ一反。伊藤よりちゝみ一反。

受方摘要 伊藤氏より十五円。

*ちゝみ(縮) *ちゝみ(縮)

七月十日 己卯 月曜 終日雨不止。

課業例の如し。午下、風邪にて臥。来客、牛込幸子、初子。

受方摘要 左右田静、五円。

七月十一日 庚辰 火曜 朝より雨、午下晴。

風邪にて臥、休業す。

受方摘要 渡辺安、五円。塩原夏、五円。今城友、千疋。上杉兩人、二円。

七月十二日 辛巳 水曜 晴。

朝六時、戸田氏教授納をなして帰る。

戸田氏、壁すきや一反。宮本晴子、浴衣二反。

★(金十麗)。

受方摘要 戸田、廿円。渡辺安、五円。片平定、五円。安田暉、五円。五軒町、一円半。
松平鱗、千疋。

*壁すきや(壁透綾)

七月十三日 壬午 木曜

来客、原三幸。方々え中元之御祝義物配らせる。森永時え、縁段定り候ニ付、壁すきや一反を祝ふ。原氏え中元、紋織御召一反、二円の菓子二籠。田村氏え紹友仙一反、菓子大折。原三幸、白縞一反。原安子よりつゝれ織帯、紹友仙二反、紹襦珍織大帯、紋織一反、博多男帯、白縮緬へこ帯、其外次一同え単地一反ツゝ、払子、如意、珠数一連。

受方摘要 松平妙、三円。西村喜三郎、二円。尾越留、五十銭。徳川氏、五円。

*御祝義物(御祝儀物) *縁段(縁談) *壁すきや(壁透綾) *紹友仙(紹友禪) *

つゝれ織帯(綴織帯) *紹友仙(紹友禪)

七月十四日 癸未 金曜

課業例の如し。午下、余、弘を拉して、小松宮様、閑院宮様え参り、御教授納をなして帰る。

閑院宮様より白絹一反。玉枝より白縞一反。毛利家より壁すきや一反。

*壁すきや(壁透綾)

七月十五日 甲申 土曜

課業例の如し。

★(金十麗)。

良子さまより御ゆかた一。

七月十六日 乙酉 日曜 晴。午下四時頃より雨降出し不止。熱甚。

朝より方々え書を寄す。大聖寺え小包出す。

七月十七日 丙戌 月曜 晴。

課業例の如し。

斯波氏よりすきや一反。

*すきや(透綾)

七月十八日 丁亥 火曜 陰晴不定。

課業例の如し。

受方摘要 屏風利子、十五円。

七月十九日 戊子 水曜 陰晴不定。

課業例の如し。仁利駒、山かた菊来り、一宿す。閑博直子二男幡、西善子大伴氏え養子治定二付、松魚一折、あかし一反を祝ふ。下婢宮下米抱る。

★(金十麗)。

受方摘要 戸田銚、一円五十銭。

*仁利駒(仁科駒) *山かた菊(山県菊) *幡(毅乎) *西善子(西善寺) *あかし(明石)

七月二十日 己丑 木曜 土用の入。朝より陰晴きはまりなし。むし熱く、八十五度。

課業例の如し。来客、角田千枝。

*むし熱く(むし暑く)

七月二十一日 庚寅 金曜 終日陰晴不定、夜雨。
課業例の如し。

七月二十二日 辛卯 土曜 朝より大雨、午下四時頃一旦晴て、又雨。
課業例の如し。この日を以、授業納めをなす。塾生帰省す。困雑一方ならず。
受方摘要 森兩人、五円。池田かよ、三円。駒井雪、一円。別府、二円。
*困雑(混雑)

七月二十三日 壬辰 日曜 晴天、午下四時頃より雨降出す。
朝四時半より鶴子房州に行。愛治郎、栄子、船場迄送る。遠藤氏、十時夜汽車にて帰省す。

七月二十四日 癸巳 月曜 晴天、暑中らしく覚え、又午後四時頃より雨降る。
朝より掃除する。来客、五島守光子。鷺田菊江、田岡と同道にて帰国、この夜、汽車二乗
るはつ也、雨中。

受方摘要 五島氏、五円。
払方摘要 わし田え 餞別、五円。
*はつ(筈) *わし田(鷺田)

七月二十五日 甲午 火曜
夜の明かた豪雨甚しく、風も添て、実にはすさまじく、昼前より漸晴渡る。わか門軸迄之出
水、往来一面の川也。
*わか(我が)

七月二十六日 乙未 水曜
朝晴、午下又雨ふる。

七月二十七日 丙寅 木曜 雨又晴不定。
青木幾恵、上野とせ子、帰省す。

七月二十八日 丁酉 金曜 晴。
朝より揮毫す。午下、田村氏え行、謡三番うたふて帰。来客、中村敬子、山根文子、岩佐
亀子兄来る。此度国元え引越候二付、亀子退校願出る。
岩佐亀子、あかし一反。
受方摘要 岩佐亀子、三円。
*あかし(明石)

七月二十九日 戊戌 土曜 晴。

朝五時前より入門。桃子、泰、栄子、長供。愛治郎、岩佐亀子送り行。房州より皆無事着電報来る、午下六時。来客、志賀鉄千代、松のとね、江副米子、静子、子供二人、加藤つね子。

*入門（出門） *松のとね（松野とね）

七月三十日 己亥 日曜 晴。先々暑中らしく、八十度。

朝より揮毫す。大坂、唯専寺え、反物小包出す。同、辻八千え、同。同、天下茶や寺田氏え、同。京都近万え、同。北白川宮様より御使者。愛治郎、横浜え行。鷺田菊江昨日無事着の電報来ル。下僕長、午下五時過房州より帰る。

北白川御息所よりなるみ一反。

受方摘要 北白川宮、千疋。

払方摘要 有松しほり、九十五銭。

*天下茶や（天下茶屋） *なるみ（鳴海） *有松しほり（有松絞）

七月三十一日 庚子 月曜 陰晴不定、夕方ヨリ雨。八十四度。

暑中見舞之書を寄、十余通。愛治郎、横浜二行、夜十一時過帰る。

受方摘要 会計より五円。

七月会計

払方摘要

七月一日、白縞三反、越後や。白かすり四反、同、八十銭ツ、

白しま一反、越後や、壱円五十五銭。十七日、越後白しま一反、津田や、六円五十銭。

廿四日、せるねる一反、塚田や、四円八十五銭。あり松しほり一反、絹や、三十日。

七月三十日、小紋御召二枚分生あらひ、津田や、八月十四日請取。

七月三十日、四ツ目大目素鼠紋付染物、津田や、八月十四日請取。

*白しま（白縞） *せるねる（セルネル） *あり松しほり（あり松絞） *生あらひ

（生洗ひ） *大目（青梅）

（八月）

八月一日 辛丑 火曜 朝より雨、午下四時晴。

揮毫する。来客、太田氏始而逢ふ。

★（金十麗）。

八月二日 壬寅 水曜 始而晴。八十二度。
朝起、墓参して帰る。来客、小池氏大工棟梁連てくる、小池清原安子使ニ来る。書至、毛利万子、小早川式子さま事一昨三十一日朝二時頃、男子御分嬖、**時朝**御死去ニ相成、式子さまハ何の障りもなきよし也。同(書至)、徳川良子。
弘方摘要 盆栽石、四円七十銭。

*時朝(昨朝)

八月三日 癸卯 木曜 雨。

朝散歩して帰、石山家を問ふため諏訪町迄行まゝに、雨降出して**跡**帰る。書至、毛利美佐子、返書す。東齋藤より小包着、返書す。

齋藤氏より**あかし**一反。

*跡(後) *あかし(明石)

八月四日 甲辰 金曜 晴。

朝より山形菊、駒兩人来り、一宿す。

八月五日 乙巳 土曜 晴。あつし。

観世清廉来る。菊、駒兩人、夕景去る。太田氏、仕立物たのむ。

小泉国子より**なるみ**二反。

*なるみ(鳴海)

八月六日 丙午 日曜 晴、**炎甚し**。八十五度。

来客、大坂木津**美尾の忠兵衛**、桜井徳兵衛博覧会之義ニ付出願のよし、**美の部氏**ニ添書す。この兩人、夕六時の汽車にて勢州二行。

弘方摘要 眼鏡一箇、十四円九十五(銭)。

***炎(ママ)** 甚し ***美尾の忠兵衛**(美尾野忠兵衛) ***義(儀)** ***美の部氏**(美濃部氏)

八月七日 丁未 月曜 朝より雨ふり涼しく、午前より晴にて又あつし。

書を寄す、**名古や**、徳川氏、小泉国子、田中芳子、酒卷千せ、京都吉田滝子豆菓子一罐、千家信子、沼尻静子、清水宮子、伊藤定子、房州桃子え書及小包物。

★(金十麗)。

***名古や**(名古屋)

八月八日 戊申 火曜 晴。八十七度。

朝起、散歩して帰。揮毫す。来客、山本久子。

八月九日 己酉 水曜 晴。八十七度。

朝起、氷川遊園に散歩して帰、揮毫す。来客、石山基遂。

★(金十麗)。

八月十日 庚戌 木曜 晴。九十一度二上り、熱甚し。

朝起、揮毫す。来客、(氏名欠)

八月十一日 辛亥 金曜 晴、風甚。八十九度。

朝起、逍遙して帰る。来客、朝九時、大坂**美尾の氏**、藤田。石山基遂、今日帰宅す。弘、石神井より帰りて、又午下三時石神井に行。書至、房州桃子、**荻のとせ子**。

★(金十麗)。

*美尾の氏(美尾野氏) *荻のとせ子(荻野とせ子)

八月十二日 壬子 土曜 晴、風甚。九十一度。

朝起、揮毫す。来客、美尾野、藤田、帰坂を告来る。

八月十三日 癸丑 日曜 晴。九十一度。

朝起、揮毫す。来客、阿久津愛子。徳川氏え手本二冊小包にて出す。石山すま子来られ、一宿。横浜市大火、昨夕九時より今曉迄焼失三千何百戸。知己の方々え見舞を出す。**外山**県、昨十二日大火。

★(金十麗)。

*外山県(富山県)

八月十四日 甲寅 月曜 晴。九十度。

朝四時より、余、愛治郎、すまと同道にて、東台納涼をする。不忍の蓮も花盛りにて、その香いとすゝし。所々散歩して帰る。来客、(氏名欠)。

★(金十麗)。

八月十五日 乙卯 火曜 晴、夜、雨又風。八十九度。

来客、大橋幸子。すま子、二夜滞留して帰る。

八月十六日 丙辰 水曜 晴。九十二度。

寄書、台湾浦氏、紀州土井氏、大分中山、越前宮原、福岡梶山、千葉長尾。電信、小松宮三島より、桃子連て三島え来レ。皆不在にて直ニ返電す。

八月十七日 丁巳 木曜 晴。八十九度。
書至、鷺田氏廿日頃帰塾、桃子。下婢茂、稻二人帰来る。

★(金十麗)。

八月十八日 戊午 金曜 晴。九十一度。
朝起、散歩して帰。

八月十九日 己未 土曜 晴。九十一度。
朝より揮毫。来客、石山基遂。弘、石神井より帰る。

★(金十麗)。

八月二十日 庚申 日曜 晴。九十度。満月如鏡。
朝より揮毫す。泰、房州陸路帰。夕景、玉枝、三治郎来る。小山田氏。

八月二十一日 辛酉 月曜 晴。九十度。
来客、伊藤半竹、赤松济子。電信至、二時レイガン島着。三時、桃子、栄子、鶴子無事着。
午前、泰、磐井と同道、房州より陸路帰着。

*レイガン島(霊岸島)

八月二十二日 壬戌 火曜 晴。九十度ながら炎々赫々、難堪。夜ニ入て雨一しきりにて
晴、月清光。
朝起。墓参して帰る。

八月二十三日 癸亥 水曜 晴、天如焼。九十一度。
朝起。散歩して帰る。来客、大坂美尾の忠兵衛、善坐長七、角野久吉、唯専寺法城。正午
十二時頃より深川辺大火。

*美尾の忠兵衛(美尾野忠兵衛)

八月二十四日 甲子 木曜 晴。九十一度ながら今年第一の炎熱、実に堪かね、風なく如
焼。
朝起。散歩して帰。来客、江副米子、静子、美尾野の三人。

八月二十五日 乙丑 金曜 晴。九十一度。
朝より来客、木津美尾野之三人也。

八月二十六日 丙寅 土曜 晴。九十一度。
朝より揮毫す。宮原氏え米舫奇珍帖小包にて贈る。
受方摘要 蒲生氏え、二円。

八月二十七日 丁卯 日曜 晴。九十一度。
朝起。揮毫す。来客、重威。本月七日に雨ふりてより今日迄焼か如きの照りにて、土地ハ
割出し風も添て、いと危険なるに、男子惣出、植木やも出て、ポンフにて屋上其外に水を
そくく。

*割出し(われ出し) *ポンフ(ポンプ)

八月二十八日 戊辰 月曜 晴。八十八度。風立。

朝起、揮毫す。来客、山県幸子。美術協会え寄附、式尺巾豎物瀑布。五島氏、額面函嶺山
中一覽図、紙地額面。諏訪氏、絹本豎物芙蓉瑠璃鳥之図。田中菊三郎、絹本豎物蓬萊山之
図。酒卷氏、絹本豎物芙蓉之図。田中加代、絹本豎物華巖瀑之図。皆落款す。吉田伝左衛
門より訃音、四男藤四郎妻吉子死去、廿六日午後五時。直ニ電報ニテ弔詞ヲノブ。

*華巖瀑(華巖瀑)

八月二十九日 己巳 火曜

暁頃より雨又晴、又一しきり暴風雨又晴、三回の暴風雨にて又晴。終日揮毫す。遂日望霓
之意不止に、此雨に逢、雨喜をなす。

*遂日(逐日)

八月三十日 庚午 水曜 晴雨不定。

朝七時半より、余、桃子と同しく、上野五号館ニテ仏国博覧会出品美術品ヲ觀而帰。来客、
五島子。

八月三十一日 辛未 木曜 陰雨不定。

朝起。大坂市教育会長森作太郎氏ヨリ依頼なる、仁徳帝千五百祭ニ付、七絶一首鷺箋ニ揮
毫して奉る。兵庫県加西郡九会尋常小学校校長古家齊氏之依頼ニ付、額面秀氣成象之四字ヲ
書て贈る。房州佐久間村北極雅会高浜愛山之依頼ニ付、題女生徒七絶、鳩の哥、寄菊祝之
三葉を書て贈ル。

受方摘要 会計より五円。

*鷺箋(画箋)

八月会計

弘方摘要

雜費、七月分、廿三円八十五錢也。

八月分、雜費、九円五錢。

三日、黒繻子袖口、絹や。

(九月)

九月一日 壬申 金曜 二百十日、無難也。朝より雨にて、午下一晴頃より晴渡る。八十度。

木村氏、本日より雇入る。

*午下一晴頃(午下一時頃)

九月二日 癸酉 土曜 雨、雨晴不定。七十六度。

朝起。揮毫す。午下、觀世来る。

弘方摘要 消費、五円。

廉。

九月三日 甲戌 日曜 晴。午下より炎熱甚。

来客、伊藤花子父基、大島たけ、田島春子、堀部、上芝氏、大坂美尾野、重威。帰塾、平田定子、鎌田愛子、手島銀子。美術協会え絹本瀑布之凶渡ス。湯風呂新調す。

弘方摘要 消費、五円。

九月四日 乙亥 月曜 晴。

朝起。丸山辺散歩して帰。来客、石山晨子、可寿子、岡田長、裁縫之人目見す、木津角野、藤田、唯専寺、飯田福子兄、仁科駒。

受方摘要 石山晨子、千疋。

九月五日 丙子 火曜 晴。

来客、新田妻及寿子、外二人。入塾、矢内蝶子、吉見辰子。本日帰塾之者、五十人余也。来栖氏より、唐物一反。

受方摘要 三条家、六円廿五錢。須田甫、二円。塩原、三円。

九月六日 丁丑 水曜 雨。至而冷氣、七十度。

開校、授業始をなす。入塾、(氏名欠)。入学、角田伊予、木内芳、中村愛、彦田若江、岩崎豊江。書至、仏国元前田事井上梅子。

九月七日 戊寅 木曜 陰雨不定。
課業例の如し。

田村氏より、フランネル一反。
受方摘要 板倉明、二円。

九月八日 己卯 金曜 陰雨不定。
課業例の如し。

九月九日 庚辰 土曜 朝より雨、時々切にして、夕景より暴風雨となる。夜十一日頃全晴、星きら／＼なり。

課業例の如し。来客、跡見法城、角野、暇乞ニ来る。

*切(しきり) *夜十一日頃(夜十一時頃)

九月十日 辛巳 日曜 晴。 氷川神社祭祀。

氷川神社祭祀。寄宿生帰塾、今日迄七十一人也。夕景より氷川神社ニ参詣して帰。来客沢山、大坂人奥田利三郎。

★(金+麗)。

払方摘要 ★(金+麗) 治え五円。

九月十一日 壬午 月曜 二百廿日、無難。最上晴。

入学、兼田千代、掛江しき。当校改正規則書成、千枚。

九月十二日 癸未 火曜 朝より小雨、午後より晴。

課業例の如し。

九月十三日 甲申 水曜 晴。七十八度。

課業例の如し。午下より岩倉家に教授して、小松宮様ニ詣し、殿下には御違例にて、御息所様と暫時御話しまふし上で、関浦の病を訪ひ、しはらく気をなくさめて帰る。来客、岡崎忠子。

*まふし上で(申し上で)

九月十四日 乙酉 木曜 晴。

課業例の如し。此度属託する大和田建樹、今日より教授せらる。石山晨子、大炊御門家政と結婚ニ付、白縮緬一反箱入を祝ふ。

受方摘要 横川氏より二円。

*属託(嘱託)

九月十五日 丙戌 金曜 晴、八時頃より雨。
朝起。墓参して帰る。課業例の如し。午下四時頃より築土八幡祭り二付、五軒町え行、夜七時二帰る。

九月十六日 丁亥 土曜 晴。夜、月よし。
課業例の如し。入塾、植竹氏、田中芳子再入塾す。手島銀子病氣二付、人を迎ひに遣し、祖父来りて連帰る。

九月十七日 戊子 日曜 晴。夜、月よし。

朝九時より、余、愛治郎、桃子、三浦と同じく、観世会二行。蒸暑く絶かねて、融一番を
残して帰る。来客、岩佐氏。

受方摘要 諏訪氏より二円。
*絶かねて(堪かねて)

九月十八日 己丑 月曜 晴。
課業例の如し。

受方摘要 遠藤林子、二円。

九月十九日 庚寅 火曜 終日曇りにて、殊に雨降出して無月。岩倉家稽古日。
課業例。午下、三条家二詣し、此度御出産御悦申上る。姫君御名を君子、御産たち少々
御弱さまのよし也。それより岩倉家ニ教授して後、謡、鼓等にて、田村長子も来る。夜八
時頃帰る。此時俄然雨降出す。三条様え御祝ニ、[緋板しめ産衣及御見舞御菓子](#)。

*緋板しめ(緋板締)

九月二十日 辛卯 水曜 雨。
課業例の如し。

受方摘要 三条家、三千疋。

九月二十一日 壬辰 木曜 雨。
課業例の如し。入塾、今井みわ、小倉蕃薇子。来客、斎藤仁子。この夜十二時より余病発
し、痔疾の[ケイレン](#)にて、早々井深氏も来り手当する。已而治す。
斎藤氏より白七子一反。

受方摘要 斎藤仁子、十円。

*ケイレン(瘰癧)

九月二十二日 癸巳 金曜
余、痔疾にて休業す。
受方摘要 五島氏、五円。

九月二十三日 甲午 土曜 晴。
秋季皇霊祭ニ付、先祖祭執行す。

九月二十四日 乙未 日曜 晴。
終日揮毫す。来客、斎藤仁子。桃子、万里、姉両伯と遊歩ニ行。六時頃、俄ニ雨降出す。
築井より白ちゝみ一反。
*白ちゝみ(白縮)

九月二十五日 丙申 月曜 陰。
課業例の如し。愛治郎、佐野常民伯ニ行。来客、斎藤仁子。

九月二十六日 丁酉 火曜 雨、午下晴。
課業例の如し。余、弘と同じく、五軒町に姉伯を問ふ。又伯と同道にて此方え御入に相成、
夜九時頃帰られる。

九月二十七日 戊戌 水曜 晴。
課業例の如し。姉小路伯、帰房せらる。

九月二十八日 己亥 木曜 晴。
課業例の如し。午下、貴婦人会ニ会す。四時帰。

九月二十九日 庚子 金曜 晴。
課業例の如し。朝、氷川神社ニ詣して帰る。
受方摘要 石山家、二円。

九月三十日 辛丑 土曜 雨。
課業例の如し。
払方摘要 観世え五円。

九月會計
払方摘要

薄花ちゝふ二反、五円八十銭。一日、奉書薄藍、染代、津田や。

一日、新織単物、洗張、津田や。十二日、ケントン、張物、近所紺や。

同(十二日)、白地こうし島、洗張。夜具、仕立、廿五銭。羽根箒木、一箇、七銭。

十三日、鉢、甘筒。十六日、玉のり縮緬、一丈一尺、津田や、三円五十銭。ヒフノ飾り、四十五銭。

十七日、観世散(棧)敷、十円。

*薄花ちゝふ(薄花秩父) *ケントン(絹緞) *こうし島(格子縞) *ヒフ(被布)

(十月)

十月一日 壬寅 日曜 陰、已而晴。あつし。

朝起。墓参して帰る。十時より、余、愛治郎、栄、鶴、弘等を拉して、観世会二行、四時後に帰宅す。来客、石山須磨子、中村島子其母と退校御礼ニ来る、長谷川千代子の母此度千代子結婚の御礼ニ来る。

長谷川千代子より八ツ橋織一反。

(十月二日、記載ナシ)

十月三日 甲辰 火曜 晴。

来客、今津久子、その母と同道。

今津氏より紋羽二重一反。

十月四日 乙巳 水曜 晴。

来客、井上市兵衛一宿す、仁科駒。

十月五日 丙午 木曜 雨、朝より雨降つゝく。

午下、岩倉家ニ教授して帰。

★(金十麗)。

十月六日 丁未 金曜 雨、朝より雨降つゝく。

課業例の如し。入塾、木村文、小倉薔薇。

十月七日 戊申 土曜 五日、六日、七日と小やみなく降つゝきたる雨に、北西風となり

ていとすさましく、只々驚入のみ也。午下五時、天全晴。

課業例の如し。田中春子、この朝より腸胃かたるにて、早速井深氏に見せ、薬用もいたし候に、かく別の事もなくハあれと先兄えしらせて迎ひを求めたれと、漸午後夕景来りて、

保証人共相談して明朝迎ひに来るへし今夜の処ハたのむとの事にて、皆々打寄て看護に怠りなく、**てつ夜**す。この日の暴風雨ハ実に近来稀成気色にて、表裏門迄水にひたし、驚入たる洪水也。

*小やみなく(小止みなく) *腸胃かたる(腸胃カタル) *てつ夜(徹夜)

十月八日 己酉 日曜 晴。

朝未明に井深氏も来りて察いたし、はやく保証人を呼ひたる方よろしとて、**すく**人を出して兄を呼ひたるに、漸にして兄来りて、今二、三日も預りくれよとの事ながら、よほどの劇なる**かたる**故、**すく**連帰られる様たのみて、つり台にて帰したるに、この時九時頃なり。保証人え帰して、暫時にて**シンザウ**は**れつ**のよしにて死去すと云事聞て、一同**魂消**驚入たる有様也。命にかゝはる事ハ有ましくと思ひしに、実に残念言む方なし。日暮に国元より親父及本家の田中原太郎氏も来る。入塾、西村小竹。

*すく(すぐ) *かたる(カタル) *すく(すぐ) *シンザウ(心臓) *はれつ(破裂) *魂消(たまげ)

十月九日 庚戌 月曜 晴。

課業例の如し。

十月十日 辛亥 火曜 晴。

課業例の如し。午下、高輪佐野常民伯二行、不在にてお春殿二逢て、暫時話して帰。毛利公二行、安子様御病気を問ふ。追々御快方也。元照様、万子様、小早川様二面晤して帰。今城友子、病氣ニ付夜帰宅す。

十月十一日 壬子 水曜 晴。

課業例の如し。

十月十二日 癸丑 木曜 雨。

課業例の如し。午下、岩倉氏二行、教授して帰。退校、塾生利根川梅子。入学、片岡市。

十月十三日 甲寅 金曜 晴。

課業例の如し。午下、閑院宮御息所ニ教授申上テ、四時帰。

(十月十四日、記載ナシ)

十月十五日 丙辰 日曜

この日より、綿入を着す。

★(金十麗)。

十月十六日 丁巳 月曜 大雨、午下全晴。

臨時休業す。朝より大雨にて、又以前の如く出水す。午下、余、及桃子と車にて川渡りして、五軒町**大職宮**鎌足公之祭典ニ参詣す。夕飯を呼れて帰る。月よし。

*大職宮(大織冠)

十月十七日 戊午 火曜 神嘗祭。晴。

祭日にて休業。来客、宮原六之介来る。午下三時頃より宮原氏同道にて、余、桃子、泰も同じく、上野白馬会及美術会とも観る。晚餐、精養軒にて喫して、月を賞しつゝ帰る。この時宮原帰浜す。入塾、永田政代。

十月十八日 己未 水曜 晴、月鏡の如し。

課業例の如し。閑院宮御息所御使みき女来。来客、安田輝子。入塾、**有よしさと子**。

*有よしさと子(有吉さと子)

十月十九日 庚申 木曜 晴。

課業例の如し。京都大聖寺え小包物出す。訃音至、去十五日天下茶屋芽木小兵衛死去す。乃弔詞を出す。

十月二十日 辛酉 金曜 雨。

(コノ日、記事ナシ)

(十月二十一日、記載ナシ)

十月二十二日 癸亥 日曜 晴。

余、愛治郎と同じく、十時之汽車にて横浜ニ行、茂木氏を問ふ。本日は**きぬた**の開きにて観世も来り、中々の盛会にて、能も景清一番、其外囃子等、素謡、仕舞、いとおもしろく、夜八時の汽車にて帰る。月清光。来客、松平軔子。生徒之茶事執行。松田氏も来る。

*きぬた(砧)

十月二十三日 甲子 月曜 雨。

習字の復習をはしむ、三日間。午下三時より、余、桃子と同じく、志賀氏に行。不二男の誕生日の祝にて、招状を受く。丹羽花子、島田信子、江副母、米子も、外に男子も十五、六人の客也。**明十四日**より、志賀氏**夏門**視察之旅行送別会也。子供の踊なども**なり**、談話などにもいとおもしろく、趣向なる福引などもあり、九時帰宅す。来客、田中幸子、一宿す。

受方摘要 田中幸子、十円。

*明十四日(明二十四日) *夏門(厦門) *なり(あり) *おもしろく(おもしろく)

十月二十四日 乙丑 火曜 晴。五十度、今朝、初霜降りていと寒し。
来客、田中源太郎。

十月二十五日 丙寅 水曜 晴。

習字復習、今日迄二にて畢。来客、田中春子父。書を寄す、茂木栄子、安田千代、吉田鉦子、藪兼子。

*〔に(衍)〕て

十月二十六日 丁卯 木曜 晴。

画の復習執行。

(十月二十七日、記載ナシ)

十月二十八日 己巳 土曜

画の復習全畢。

(十月二十九日〜三十一日、記載ナシ)

十月会計

十日、[ケントン](#)一疋、津田や、三円五十銭。十日、[紫友仙めりんす](#)一丈、絹や、一円六十銭。

*[ケントン](#)(絹緞) *紫友仙(紫友禅) *めりんす(メリンス)

(十一月)

(十一月一日、記載ナシ)

十一月二日 甲戌 木曜 夜雨。

(コノ日、記事ナシ)

十一月三日 乙亥 金曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

(十一月四日〜十日、記載ナシ)

十一月十一日 癸未 土曜

訃音至、河鱒齊妻美知子去九日死去。即香奠金千疋を備ル。

*備ル(供ル)

(十一月十二日〜十八日、記載ナシ)

十一月十九日 辛卯 日曜 晴。

朝十時より、余、愛治郎、栄子と同しく、団子坂辺の某別荘にて、煮茶会ニ行。陳列殊おもしろし。帰宅後、午餐済て絵画競進会之観覧す。已而帰宅す。

*煮茶会(煎茶会)

十一月二十日 壬辰 月曜 晴。

課業例の如し。

十一月二十一日 癸巳 火曜 晴。

朝八時新橋ニ行、浜荻典侍京都より九時御着ニ付、御迎ひに行。久々にて、御無事ニテ御悦び申上候。夫より岩倉家ニ教授して帰。午下一時より戸田氏に教授して帰る。書至、中山本太郎。

十一月二十二日 甲午 水曜 晴。

余、愛治郎同行ニテ横浜茂木氏之約ニ応して行、原氏ニ一宿。

十一月二十三日 乙未 木曜 晴。

横浜能楽堂ニ能を観る。茂木氏之招待也。夜ニ入、六時済、原氏ニ而晚餐を喫して帰。

十一月二十四日 丙申 金曜 晴。

訃音来、一条良子廿二日逝去。

(十一月二十五日、記載ナシ)

十一月二十六日 戊戌 日曜 晴。

朝、一条家ニ弔詞を申出ル。御霊前ニ参拝して帰。香奠千疋。

(十一月二十七日〜二十八日、記載ナシ)

十一月二十九日 辛丑 水曜 晴。

来客、新井好子。観世★(金十麗) 治郎、北海道え出立ニ付、本八丈一反、金五円錢別す。
受方摘要 新井好子、十五円。

十一月三十日 壬寅 木曜 晴。

午下、戸田氏、岩倉氏ニ教授して帰。此日より大和田氏ニ稽古始める。

(十一月会計、記載ナシ)

(十二月)

十二月一日 癸卯 金曜 晴。霜、雪の如し。

朝墓参して帰。新井好子、二夜とまりて帰。大和田氏来る。新井好子え紋羽二重一反箱入を贈る。

十二月二日 甲辰 土曜 晴。

観世会ニ行、終日能を観而帰。来客、万里小路智子、橋本吉兵衛。大坂桜井徳兵衛より懐紙掛三枚着。

三日の記事也。

受方摘要 万里小路智、五百疋。若松典侍、五円。

十二月三日 乙巳 日曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

十二月四日 丙午 月曜

此日より生徒書始稽古す。来客、田中芳子父。

田中芳子より紋羽二重一反箱入。

(十二月五日、記載ナシ)

十二月六日 戊申 水曜 晴。

正子、昨夜十二時頃少々つゝ腹痛ニテ、追々強クなる。朝、西尾鏡、尾形安、安ひるの三人、産婆来る。産気の催しにて、大イニ準備する。石山家にも知らせ、すま子来る。井

深氏詰切居る。

十二月七日 己酉 木曜 晴、午下三時頃より珍らしき雨也。已而晴。
○時二十分出産す。女子也。頗壯健、皆々安堵する。すへての仕度済て、昼飯後産婆皆々
帰。追々悦の人々来る。

(十二月八日、記載ナシ)

十二月九日 辛亥 土曜
出産女、命名して靖子ト言ふ。十二月七日生也。豊田市蔵、里親はる連来りて、乳も付、
能く飲む。

(十二月十日、十一日、記載ナシ)

十二月十二日 甲寅 火曜 晴。
画、書初皆済。午下、戸田氏ニ教授して、閑院宮様え参り、御短冊及色紙ニ御染筆を願て
帰。

此記事ハ廿二日也。

靖子、六日かざりの祝にて、産婆及乳母にも祝膳にて呼ぶ。昼早々、靖子里に遣し、愛治
郎も付添行、この夜帰。

閑院宮様より御召縮緬一反。戸田氏より一楽織一反。

受方摘要 戸田氏、七円。

弘方摘要 大和田え五円。

十二月十三日 乙卯 水曜 晴、夕景より雨降出す。

授業納をなす。片平氏より紋壁友仙産衣。来客、斎藤善子。

原氏より紋御召一反、コート地一反、栄、鶴え紋羽二重模様二反。

受方摘要 閑院宮、三十円。三条ケ、十円。同、一円五十銭。池田かよ、三円。今城、二

円五十銭。片平、五円。

弘方摘要 観世え五円。

*友仙(友禅) *三条ケ(三条家)

(十二月十四日、十六日、記載ナシ)

十二月十七日 己未 日曜

受方摘要 斎藤常子、五円。片平常治、五円。田中孝、十円。某、三円。

十二月十八日 庚申 月曜
受方摘要 若松典侍、五円。山田梅、四円。田村、廿円。塩原兩人、五円。西村喜三郎、二円。

十二月十九日 辛酉 火曜
受方摘要 平田三枝、三円。吉田鉦子、三円。斎藤梅子、十円。万里智子、一円五十銭。安田輝子、五円。

十二月二十日 壬戌 水曜
受方摘要 斎藤松の、廿円。常子、五円。生源寺いさを、三円。樹下定江、三円。大東豊子、三円。藪兼子、三円。

十二月二十一日 癸亥 木曜
大和田氏来。
受方摘要 上杉重子、五円。上杉兩人、二円。

十二月二十二日 甲子 金曜 朝小雨にて已而晴。
当日之記事、十二(日)と違ふ。
大和田氏来。

十二月二十三日 乙丑 土曜 晴。
授業納めを行ふ。塾生も帰省する。
受方摘要 斎藤善子、十円。

十二月二十四日 丙寅 日曜
田村氏え歳暮二行、紋織一反を贈る。

(十二月二十五日、記載ナシ)

十二月二十六日 戊辰 火曜 晴。
朝より小松宮様え御歳暮ニ参り、志賀氏、三条家、岩倉家ニ稽古納して帰。来客、万里小路伯、中村敬、中根父。
中村敬子より毛織一反。岩倉氏より羽織裏地。
受方摘要 小松宮、二円五十銭。岩倉家、廿五円。徳川氏、五円。園典侍、三円。

十二月二十七日 己巳 水曜 晴。

午下早々、余、桃子と買物二行、日暮帰。石山基正五年祭二付、愛治郎参詣す。大坂辻八千より還暦の祝として、一入作黒茶碗銘冬籠□□、宝珠、香合。
受方摘要 松平鏐、千疋。戸田銕、一円五十銭。

十二月二十八日 庚午 木曜 晴。

靖子内祝を配付す。紅や製ぎうひ鶴の子もち、松魚券、横浜行。東京ハ、右鶴の子もち、松魚箱入。

受方摘要 松平妙子、三円。斎藤梅、五円。

*ぎうひ(求肥) *鶴の子もち(鶴の子餅) *鶴の子もち(鶴の子餅)

(十二月二十九日〜三十一日、記載ナシ)

(十二月會計、記載ナシ)